

トンネル被覆栽培によるスモモの熟期促進に関する研究

木村和彦・内原裕保・五百蔵 茂・西本幸正

Studies on Promotion of the period of ripening of the cultivation
of Japanese plums using tunnel culture

Kazuhiko KIMURA and Hiroyasu UCHIHARA and Sigeru IROI and Kousei NISHIMOTO

要 約

果実発育中の気象要因と開花から収穫までの日数との関連について調査し、トンネル被覆栽培による熟期促進と雨よけによる結実安定効果について検討した。

- 1．開花から収穫までの日数に影響を与える気象要因としては気温の影響が大きく、満開期～硬核期（満開後 30～40 日）までの温度を高く経過させると熟期が促進された。
- 2．棚栽培のスモモにおいては、棚上にトンネル型被覆施設を設置し満開直前～満開後 40 日程度被覆することにより慣行栽培に比べ 4～5 日程度の熟期促進が可能であった。
- 3．トンネル被覆を開花直前から行くと、開花期の降雨による着果率の低下を防ぐことができ結実安定が図られた。
- 4．トンネル栽培を部分的に経営に取り入れることにより、熟期促進による有利販売性の向上と熟期拡大による収穫期の労働分散が可能になるとともに、開花期の降雨遮断によって結実率が向上し、安定生産が可能になった。

キーワード：ニホンスモモ，簡易被覆栽培，トンネル栽培，
熟期促進，結実安定，